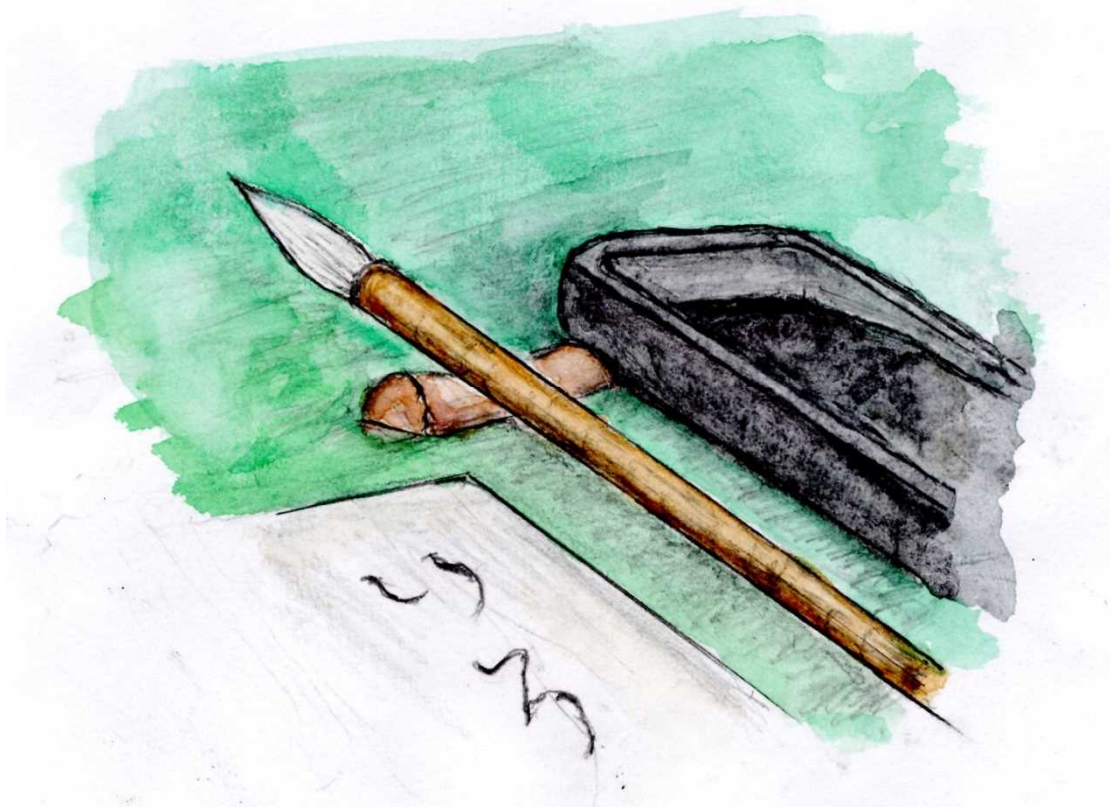


吹田の郷

発行/NPO 法人すいた市民環境会議 会長/小田忠文 ホームページ<http://www3.big.or.jp/~sskk/sskk.htm> 設立/1997年3月15日
事務局/〒564-0062 大阪府吹田市垂水町3丁目8-28-106 中村小夜子 TEL/090-8375-0647 FAX/06-6386-9491 編集/会報委員会
年会費/正会員(個人・団体)1,000円、正会員(法人)10,000円、購読会員1,000円、賛助会員10,000円 郵便振込口座番号/00980-3-28845



目次

1. 表紙「毛筆」
2. 会長コラムと表紙の絵説明
3. 自然エネルギーすいた (SES) ニュース
・吹田ぶくぶく市民共同発電所 2023年実績
4. 生きもの委員会ニュース
・関西大学の木本観察会 (12月26日)
・「レッドリストすいた2024」にブラックリストを記載
6. 生活環境委員会ニュース
・2023 神崎川河畔プラごみゼロアクション
【報告2】「収集したごみ」アジェンダ21すいた
・イオンチアーズクラブとエコ・クッキング
8. 生活環境委員会ニュース
・環境会議のエコ・クッキング④
食物の「旬」&地球温暖化との関わり
10. 学習研修ニュース
わたしたちの暮らしとエネルギーを考えるワークショップ
・映画上映+ワークショップ
原発をとめた裁判長 そして原発をとめる農家たち
・オンラインイベント (ZOOM)
原発災害から12年 福島のエネルギーと農業
11. 知床あれこれ
知床は流水の季節「流水ウォークツアー」
12. 事務局よりお知らせ・イベント案内
(報告) すいた環境教育フェスタ2024
(案内) ラコルタ主催「みんなのSUITA DAY」
(案内) まちなみ散策会「EXPO'70パビリオン見学」

春夏秋冬

会長 小田忠文

昨年末から厚労省は「人生会議」のキャンペーンをはじめました。日ごろ元気な人でも突然大きな病気やケガをして自分の意思表示ができなくなるかもしれません。人生会議とは元気な間に最期はどこで、どのような医療やケアを受けたいのかを家族などと意思を共有するための話し合い(会議)をして書き残しましょうという考え方です。▲ではなぜ今、人生会議なのでしょう。私が医師になった1970年代から2000年ころまでは医療職のあいだでは「死は医学の敗北」という考えがあり、「死ぬことはいけないこと」という思想のもと、がん末期であろうが90才の老衰であろうが、亡くなる直前には輸液はもちろん、鼻からのチューブ栄養や人工呼吸、心臓マッサージ、電気ショックなどあらゆる処置をおこないました。身の回りがチューブだらけになるこの様子はスパゲッティ症候群と揶揄されるようになり、80年代には終末期集中豪雨的治療はひかえる傾向になってきました。そして家族が死にゆく人との別れの時間ができましたが、「呼吸が止まっているのに何もしてくれないのですか」と責めてくる家族はまだまだ少なからず存在しました。▲やがて90年代になると、とくに95年の阪神淡路大震災のあとからは「人は死ぬもの」という実感が世間にも浸透してきたようで、徐々に患者との別れの時間を設けたほうが家族から感謝されるようになってきました。そのような環境だった2006年3月に富山県射水(イヅ)市民病院で外科病棟に入院していた終末期の患者のうち、前年までの5年間に人工呼吸器を

外されて7名が死亡していたことが判明しました。担当医が殺人容疑で書類送検され、病院から自宅待機を命じられた後、福祉保健部に異動させられ、同年末には退職に追い込まれました。この事件を契機として厚生労働省は医師が犯罪者になることを避けるため、2007年に終末期医療についてガイドラインを作り、一定の条件下に、医療行為の差し控えや中止を認めました。おなじ2006年にがん対策基本法が成立し、がんが進行して治療が困難になったとき、治療ではなく痛みを緩和することで最期の時期を家族と意思疎通しながら有意義に過ごせるようになってきました。▲2010年ころから病院に入院する際、状態が悪い患者の場合は延命治療を受けたいのかどうかを聞くようになってきました。しかし「人工呼吸をしてください」「胃瘻を作ってください」という家族はまだまだ存在しました。当時は胃瘻の技術や道具が良くなって安易に胃瘻造設がおこなわれていました。食べられなくなっても死ねない時代になったのです。胃瘻からの注入や人工呼吸をとめたら殺人罪に問われかねないので、胃瘻や人工呼吸を始めると止められなくなってきました。このように回復の見込みがない患者に医療費が湯水のように使われていたのです。▲2018年3月に国は再度「人生の最終段階のガイドライン・ACP(アドバンス・ケア・プランニング)」を打ち出し、同年末にガイドラインの愛称を「人生会議」として、啓発普及しようとしたのですが、コロナ時代となったためうまく進まなかったようです。ようやく昨年末、厚労省は「人生会議」のキャンペーンを始めたわけです。さて人生会議とは？みなさん、自分の問題として調べて、考えてみてください。

<表紙の絵>

思い出の原風景シリーズ(20)

「毛筆」

今年も、幼馴染から毛筆で干支の「辰」を大書した年賀状が届き、小学校での「お習字」の時間を思い出した。今となっては「練習帳」に書いた文字に記憶はないが、後年、漢字を書く「筆使い」を練習する「永字八法」という方法を知った。また、「弘法、筆を選ばず」と云うが、書道家は、揮毫にあたり、思いを託す「筆」を選ぶと云う。毛筆の白は「羊毛」で、茶色は馬やイタチなどの「茶色の動物」の毛であると云う。広島県熊野町の「熊野筆」が有名で、筆の軸を作る人、毛を揃える人、筆を完成する人など、分業ではあるが、全工程を一人で仕上げる技能を持った「伝統工芸士」と呼ばれている人達もいると云う。書道は茶道・華道と並び、文字を書くこと云う「わが国固有の美術」として世界に誇る事のできる文化でもある。

(表紙の絵と文：生きもの委員 塩田 敏治)



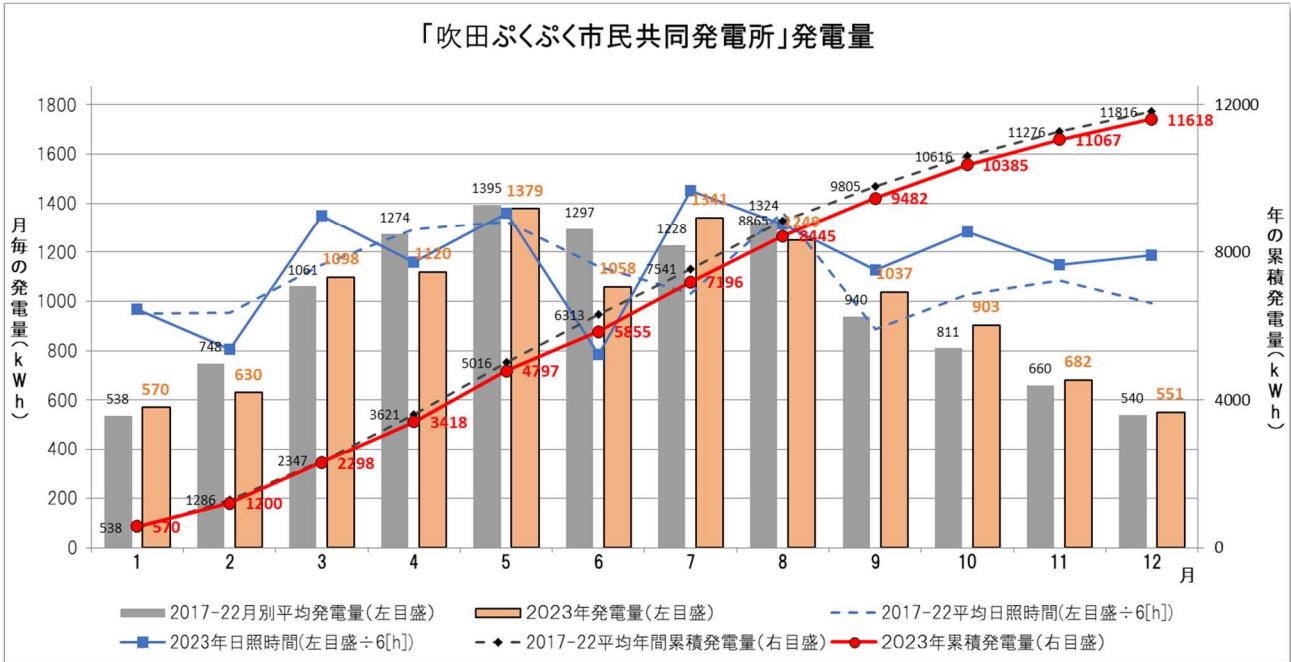
吹田ぷくぷく市民共同発電所 2023 年実績

吹田ぷくぷく市民共同発電所は、2017年1月の発電開始以来、丸7年が経過しました。今回は、2023年の年間発電実績を報告します。

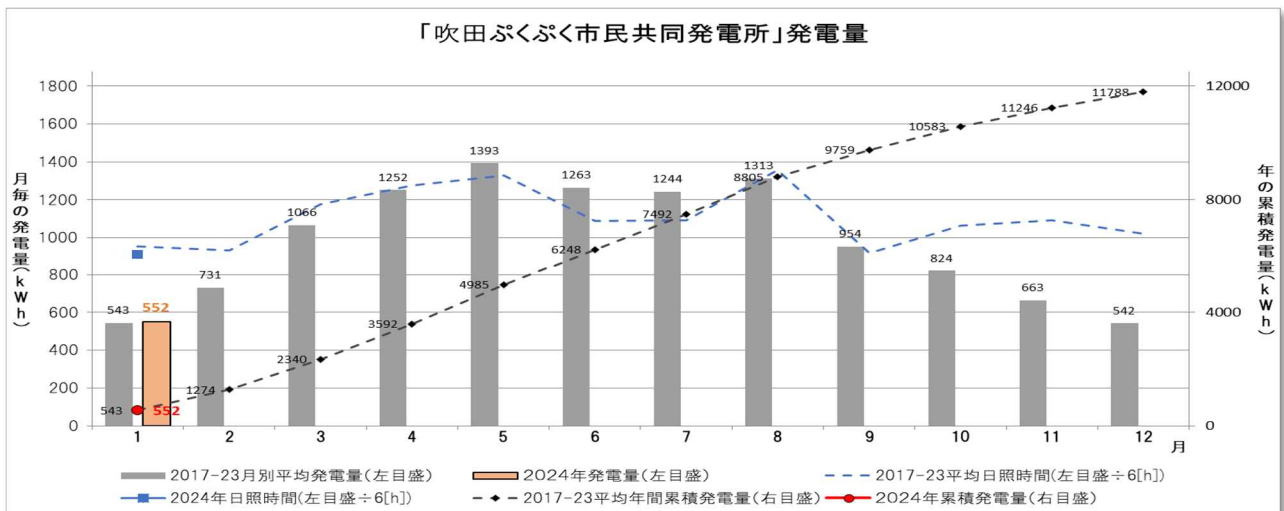
2023年の年間発電量合計は11,618kWhでした。2017～2022年の過去6年平均が11,816kWhでしたので、それより若干少ないですが、ほぼ例年並みでした。また、2023年の日照時間(気象庁による大阪のデータ)は、過去5年平均に比べて5.6%程度長かった(昨年2,324h/過去平均2,200h)ため、日照時間当たりの発電量としては低下しました。結果的に、2023年は全般的に天候が良く、それに助けられました。毎月の状況を確認すると、7月、9月、10月は天候が良く、発電量が例年を大きく上回り

ました。逆に2月、4月、6月の日照時間が短く、発電量としては低めでした。

ちなみに、吹田ぷくぷく市民共同発電所では、2023年の太陽光による発電量のうち74%程度を設置場所にて自家消費しました。残りは売電です。自家消費率としてはほぼ例年通りですが、通常、一般住宅用では自家消費率が3割程度ですので、この数字はかなり大きい方です。なるべく多く自家消費できる方が、エネルギーの地産地消に効果的です。これは望ましい結果です。



吹田ぷくぷく市民共同発電所の2024年1月発電概況は以下の通りです。(今回から過去平均値が2017～2023の7年間の平均値となっています。)
1月概況:日照時間が対過去平均値約96%、発電量が約102%と微増でした。



1. 関西大学の大木観察会(12月26日)

生きもの委員会 平軍二・尾方義雄

ここ数年、「レッドリストすいた」の作成もあり、観察会は希少植物を中心にしてきたが、大木観察会を関西大学で実施した。久しぶりの大木観察とあって、2017年に実施したVol 3の調査メンバーを中心に21人の方が参加して下さいました。

関西大学千里山キャンパスは100年前の大正11(1922)年に開校されていることから、樹木の植えられた時期が吹田市内の公園などより古く、大木レベル(幹周り2m)より大きな木、環境省の巨樹・巨木レベル(幹周り3m)の木が多い。



↑ 第2学舎1号館北側 No658 クスノキ
(幹周り457cm)

2017年調査(Vol 3)では関西大学において大木107本を確認したが、今回は一筆書きコースを取り、80本近い大木を観察した。コースから外れた所や、関大一高・一中など通常入場できない場所にある木を除き、

- ・実在しているかどうか確認
- ・幹周り実測確認テスト

をしながら回った。

大木調査(Vol 4)を、これまでと同じ方法で実施する場合、3年後の2027年になるため、調査に向けた準備が必要であることを実感した。

2024年度はVol 3調査で大木の多かった万博



↑ 簡文館前 No691 9本立ちクスノキ(幹周り460cm)

公園、千里北公園、千里南公園、旧吹田村などで、Vol 4の調査下見を兼ねた観察会を実施したい。

2. 「レッドリストすいた 2024」にブラックリストを記載

「レッドリストすいた 2021」を2022年3月に発刊したあと、新しく見つかった絶滅危惧種のうち植物については、これまで何度か会報に報告してきた。現在、3月末完成を目指して「レッドリストすいた 2024」を作成中であるが、絶滅危惧種の追加などその後の新規情報による修正を行うとともに、「特に生態系に大きな影響を与えることが懸念される外来生物を『ブラックリスト』として加えることとした。

環境省では特に生態系に大きな影響を与える外来生物を「特定外来生物」に指定し、その飼養・栽培・保管・運搬・輸入などに規制を行うとともに、国や自治体が外来生物の駆除を行うことを決めている。また、近隣の兵庫県や神戸市は「ブラックリスト」、堺市では「アラートリスト」として指定している。

2-① オオキンケイギク

今回ブラックリスト記載種の中で一番身近に見られる植物は、オオキンケイギクである。千里ニュータウンを中心に市内全域で空き地に群生している所が多く、コスモスを思わせる黄色い大きな花が咲き、特定外来生物に指定されていることをご存じない方により、花壇の花、お花畑のように歓迎されている所もある。

オオキンケイギクの生育地は、年2回草刈りされている空き地のチガヤ草原であるが、ここはヤマサギソウ・アイナエ・イヌセンブリ・スズサイコなどの希少植物の生育地でもある。

オオキンケイギクは草丈が高いことから、ヤマサギソウなど希少植物生育地にオオキンケイギクが入ると、日陰をつくり希少植物絶滅の危険性が増すことになる。しかも草刈りの季節が、種子分散期にあたるオオキンケイギクは、草刈りにより繁殖範囲が拡大している。希少植物を守るためには、生育地にオオキンケイギクが入ることを完全に阻止する必要がある。

武田義明先生は「特定外来植物から吹田の自然を守る会」を設置され、オオキンケイギクなどの除去活動を地道に続けられている。今回ブラックリスト作成により、絶滅危惧種の生育環境を守るための重要な活動であることが良く分かった。



2—② クビアカツヤカミキリ



2/16(金)「NHK-TV かんさい熱視線」で、カミキリムシ科クビアカツヤカミキリによる桜・ウメの大阪府での被害について報道され、近隣では高槻市で被害が拡大している状況が報告された。

今の所、吹田市にはクビアカツヤカミキリは侵入していないと思われるが、大阪市・高槻市など近隣都市に被害が出ていることから、早晚吹田市に侵入してくる可能性が高い。

これまで桜は、大木かどうか太さを見てきたが、今後はクビアカツヤカミキリ被害の兆候がないかどうか留意し、早目に対応したいと思っている。

↑(左)クビアカツヤカミキリ成虫 (右)幼虫によるフラス

「フラス」とは、幹の中の幼虫が排出する木屑+糞

(以上大阪府 HP 「クビアカツヤカミキリ」警戒中より)

2—③ 「レッドリストすいた 2024」完成後

全市域が都市計画上の市街化区域である吹田市において、「レッドリストすいた 2021」にプラスする新希少種が予想以上に多く見つかった。

しかも、今回「レッドリストすいた 2024」にブラックリストを加味したことで、吹田市における生物に対する全体像がわかり、絶滅危惧の危機が更に迫っていることを実感した。

武田義明先生のご指導により、集約した「レッドリストすいた 2024」が、吹田市の「生物多様性地域戦略」の基礎となり、市の開発計画時の指針として利用されることで、絶滅危惧種がいつまでも生き残ることを願っている。(20240222 記)

次回、生きもの委員会の観察会案内 「イヌフグリ・ヒキノカサの観察会」

内容 南千里～佐竹台にある希少植物を観察

日時：3月30日(土)9:30～12:00 頃

集合：阪急南千里駅改札口周辺

参加費：会員 200 円、非会員 300 円

担当：平 軍二、尾方義雄

申込：電話 090-6901-1425(平)

メール g.0501.hi@gmail.com

カラー資料を準備すること、雨天開催可否連絡などのため、必ず申し込んでください。

11月23日に開催した「2023 神崎川河川敷」について、前号の報告につづき、共催したアジェンダ 21 すいたの水川さんから、収集したごみについて報告をいただきました。

2023 プラごみゼロアクション

神崎川河川敷 報告 2

海洋プラスチックごみをへらそう！

報告：アジェンダ 21 すいた 大阪ごみを考える会 水川晶子

今回、アジェンダ 21 すいたは 11 月 23 日に開催された「神崎川河川敷プラごみゼロアクション」に共催という形で企画に加わり、吹田市環境部事業課へごみ収集の依頼をしました。当日は同志社大学経済学部准教授の原田禎夫先生を講師に総勢 41 名で歩き、原田先生にはヨーロッパのプラスチック事情などの解説と講評をお願いしました。

●気になる不法投棄

①洗濯機 広芝町



広芝町のマンションの敷地に置かれた不法投棄です。これは 12 月に見に行った時もまだありました。

②生ごみとプラ容器 神崎川河川敷



右の方は、ごみごみを呼んでプラ容器などが増えています。

③ふとん 神崎川河川敷



これも河川敷の植え込みの中にあったふとんです。下見の時は気づきませんでした。どこからどうやって運び込んだのでしょうか。

④壊れた自転車 神崎川河川敷



河川敷の植え込みの向う側に見えないように捨てられていました。下見の時もありました。

●廃棄物処理法によると

不法投棄とは、廃棄物をみだりに捨てることをいい、5 年以下の懲役若しくは 1000 万円以下の罰金、または両方を科されます（廃棄物処理法 25 条 1 項 14 号、16 条）。

もし私有地へ不法投棄された場合、基本的には、不法投棄した者を特定できない場合、土地の所有者がその廃棄物を処分しなければなりません。

捨てられた洗濯機のことを事業課に聞いたとこ

ろ、マンションの集積場など私有地に置かれた不法投棄物は、有料で管理組合が責任をもって処理することになり、事業課では洗濯機をごみとしては収集できないとのこと。よそから持ち込まないように、マンションなどでは防止策を講じる必要があるそうです。すなわち、看板を立てたり、貼り紙をしたり、監視カメラを設置するなどです。

●集計結果（個数別）

タバコの吸い殻が非常に多く（江坂側が多いのは側溝の蓋を上げて集めたからでもある）、歩きタバコはなくなりません。レジ袋は少なく、代わりに紙袋が増えています。

生活用品としてゴム手袋、画鋸、結束バンド、電池、傘、ふとんなどがありました。2.5 cm以上のポリ袋・シートの破片は神崎川に多くありました。このまま海に行き、マイクロプラスチックになる可能性があります。

●集めたごみはどこへ

皆さんが集めたごみは自転車も含めリヤカーで河川敷から上に運び、川面下水処理場玄関前に置いて事業課に取りに来ていただきました。

生ごみとふとんは大体の場所を事業課に伝え、土木部道路室維持補修グループに取りに来ていただきました。翌日、見に行くときれいになくなっていました。

集めたごみは川面下水処理場玄関前に運んだ



| 神崎川プラごみゼロアクション 川ごみ調査カード集計 2023.11.23 | | | | | |
|--------------------------------------|------|-----|----------------------|------|----|
| 飲料・食料品の容器包装 | （個数） | | 飲食以外の容器包装 | （個数） | |
| | 神崎川 | 江坂 | | 神崎川 | 江坂 |
| 飲料ペット | 4 | 9 | 買い物レジ袋 | 2 | 2 |
| 飲料びん | 5 | 2 | ポリ袋（レジ袋、食品用以外） | 16 | 6 |
| 飲料缶 | 13 | 1 | 紙の袋 | 12 | 22 |
| 飲料紙パック | 3 | 1 | プラのふた・キャップ | 0 | 5 |
| 食品の発泡スチロール容器 | 26 | 3 | 計 | 30 | 35 |
| 食品のプラ容器（弁当、トレイ） | 38 | 9 | | | |
| 食品のポリ袋（菓子袋など） | 58 | 78 | 生活用品 | | |
| 飲料ペットのキャップ | 2 | 3 | おもちゃ | 0 | 1 |
| その他のプラふた・キャップ | 1 | 4 | 電池 | 1 | 7 |
| 飲料ビンの金属キャップ | 2 | 3 | ひも・ロープ※1mを1として | 1 | 3 |
| ストロー（マドラー含む） | 0 | 2 | その他の生活用品 | 16 | 44 |
| 計 | 152 | 115 | 計 | 18 | 55 |
| | | | | | |
| タバコ | | | レジャー・スポーツ | | |
| タバコのすいがら・フィルター | 150 | 560 | シート | 1 | 0 |
| タバコのパッケージ・包装 | 4 | 17 | ボール（ゴルフボール2含む） | 3 | 0 |
| 使い捨てライター | 0 | 3 | | | |
| 計 | 154 | 580 | その他（数のみ） | 69 | 23 |
| | | | | | |
| 破片・かけら（2.5cm以上のみ） | | | | | |
| 硬いプラスチック破片 | 15 | 18 | 発泡スチロールの破片 | 15 | 2 |
| ポリ袋・シートの破片 | 57 | 33 | ガラスやせともの破片 | 13 | 10 |
| 計 | 72 | 51 | 計 | 28 | 12 |
| | | | | | |
| 特に気になったごみ・危険なごみ | | | | | |
| 神崎川 | | | 江坂 | | |
| 紙ごみ14 つまようじ1 養生テープ 新聞紙 | | | 1円硬貨2 おにぎり 洗濯機 ゴム手袋 | | |
| ガムのかす 自転車サドル 大量の袋入り生ごみ | | | 輪ゴム フライドポテト ビニールテープ | | |
| 壊れた蛍光灯 段ボール箱 カーペット 缶 | | | ストラップ 金属片 溝の底に大量の吸い殻 | | |
| ふとん | | | ヤマト配送センターの三角コーン朽ちたまま | | |
| | | | 放置 コンテナに入った置き去りごみ | | |

●原田先生の講評

「これだけのごみが集まったということは、これだけのものが海に流れなくて済んだと考えられます。不法投棄の問題は難しいものがあるが、こういう活動をしていることをたくさんの人に知ってもらうことは重要です。今回、ごみを拾ったところは神崎川という場所だったが、いろんな場所ですつながりや広がりができると思ったらいいと思います。」

イオン チアーズ クラブと エコ・クッキング

報告：生活環境委員会 喜田久美子

1/27(土) 会場は山田ゆいぴあ。クラブの子どもたち5名と兄弟やおとなたち計13名で開催。定番メニューに新作を加え、にぎやかに、楽しく、おいしくできました！

メニューは、具たくさん冬野菜スープ
ゆで鶏、ほうじ茶プリンなど▶



保温調理もばっちり！



おいしいお顔って
こんな顔！



環境会議の エコ・クッキング④

生活環境委員会
安田直子

シリーズの4回目です。調理の前に、食物の「旬」と地球温暖化との関わりについて考えてみます。

●旬とは

現代は食材の人工栽培、工場での加工製造度、輸送力が向上し、いつでもどこでも食べることが可能になりました(利便性)。しかしもともと食材(収穫物)には季節の巡りと共に収穫時期があります。それを“旬”といい、時期を追って「走り」、「盛り」(いわゆる旬)、「名残」(なごり)と呼びますが、あまり使われない言葉になっていくのではと危惧しています。

走り: 季節に先駆け収穫された一番乗りの収穫物。量はまだまだ少なく珍しい。貴重、高価な割に瑞々しく未熟なことが多く、おいしさ・栄養価も十分でない。季節の到来を待ちわび、貴重さを尊ぶ細やかさ・妙味がある。江戸期、初物食いを喜ぶ文化が発生、促成・電照栽培技術の発達を促す。今は栽培技術、エネルギー利用、流通網拡大でいつでも多量入手可能で「走り」を尊ぶ気質は減少。(ex 初ガツオ、新茶)

盛り: その作物が太陽の自然光・エネルギーをよく浴び最も熟す時期に収穫されたもの。何も特別なことをせずとも充分生育した状態。作物で適期は異なる。収穫が最も多く、立派な生育に収穫の喜び、食の充実感が大きい。多く出回り安価で流通(お買得感)。美味しい=栄養価も高く充実(魚は産卵前でいわゆる脂がのった状態)。廃棄部分も比較的少ない。調味をあまりせずとも持味(滋味)で美味しく、鮮度を実感。季節の喜びを最も感じる満足感。この「盛りもの」は進んで食卓へ出したい。また「दैあいのもの」という組み合わせも奥深い(ex ぶり大根、若竹煮)。今は多収穫に価格変動が絡み、廃棄の憂き目を余儀なくされる場合もたびたびある。

名残: 盛りを過ぎ収穫量が減少してきた時期の作物。野菜等水分も減り気味、円熟味や2番なり、うらなり(過熟、傷み、小果、種が多くなるなど)も。栄養的に減少するものも多く、価格は下落または品薄でやや上昇。季節の最後にもう一度と感謝と名残惜しい気持ちに、季節の移り変わりを感じる心が宿る。



現代は流通網の発達・充実により、作物が品薄になるのを見越した他からの輸送が可能で、季を惜しむ気持ちは少なくなっています。望まないでも年中同じ食材があり、端境期なしの状態といえます(安定状態の場合)。変化がなく、ないものはないという感覚も失っています。しかし季節感(旬)は和食の神髄であり、日本食文化の奥深さを生みだしてきたのです。

主な野菜・魚介類の出回り期

kikkoman.co.jpより抜(2022年前後、現在の出回り)

調理学実習P157(1988光生館):大阪府中央卸売市場年報抜1987年(約30年前)の出回り月

| | 四季 | 春 | | | 夏 | | | 秋 | | | 冬 | | |
|-----|------------------|---|---|---|---|---|---|---|----|----|----|---|---|
| | 月 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 1 | 2 |
| 野菜類 | うど | | | | | | | | | | | | |
| | かぶ | | | | | | | | | | | | |
| | キャベツ | | | | | | | | | | | | |
| | さやえんどう(きぬさやえんどう) | | | | | | | | | | | | |
| | たまねぎ | | | | | | | | | | | | |
| | たけのこ | | | | | | | | | | | | |
| | アスパラガス | | | | | | | | | | | | |
| | レタス(サニーレタス) | | | | | | | | | | | | |
| | きゅうり | | | | | | | | | | | | |
| | じゃがいも新じゃが | | | | | | | | | | | | |
| | トマト | | | | | | | | | | | | |
| | あおとうがらし | | | | | | | | | | | | |
| | いんげん | | | | | | | | | | | | |
| | えだまめ | | | | | | | | | | | | |
| | オクラ | | | | | | | | | | | | |
| | かぼちゃ | | | | | | | | | | | | |
| | とうもろこし(スイートコーン) | | | | | | | | | | | | |
| | ピーマン | | | | | | | | | | | | |
| | なす | | | | | | | | | | | | |
| | 西洋人参 | | | | | | | | | | | | |
| | ねぎ(白ねぎ) | | | | | | | | | | | | |
| | はくさい | | | | | | | | | | | | |
| | ほうれんそう | | | | | | | | | | | | |
| | ブロッコリー | | | | | | | | | | | | |
| | だいこん | | | | | | | | | | | | |
| | セロリ | | | | | | | | | | | | |
| | れんこん | | | | | | | | | | | | |
| 魚介類 | はまぐり | | | | | | | | | | | | |
| | さわら | | | | | | | | | | | | |
| | まだい | | | | | | | | | | | | |
| | かつお | | | | | | | | | | | | |
| | いわし(まいわし) | | | | | | | | | | | | |
| | さば | | | | | | | | | | | | |
| | さんま | | | | | | | | | | | | |
| | さけ | | | | | | | | | | | | |
| | いか | | | | | | | | | | | | |
| | ぶり | | | | | | | | | | | | |
| | かき | | | | | | | | | | | | |
| | ひらめ | | | | | | | | | | | | |

表は、日頃よく使う野菜・魚介の年間の市場への出回りを一部ピックアップしてみたもの。現在の出回り月は(ネット調べ)で、()はほぼ30年前の出回り月(調理実習書掲載から)です。出所が異なりここで定かには比較できないけれど、多品目でズレがみられます。その理由は色々あるかと思われますが、温暖化現象で今後は更に変化がみられると推測できます。

●食の四季を身近に感じる

食の四季を身近に感じることで下記の効果が期待できます。

- ・子供も含め、栽培、飼育、採集、釣等の体験で、携わる人への感謝の心と動植物と食べ物（動植物の命）を慈しむ心が育ちます。
- ・旬のものを調理する際、そのおいしさを損ねず生かし、食材は余すところなくどういただくかを自分で工夫する心が育ちます。
- ・近年は食材の加工・商品化・流通・包装技術の発達で、食材を自分自身で見極めることが減少しつつあります。風味も、安全性なども他者任せ、五感・感性が後退しています。五感を働かせて食材を見極めることが大切です。
- ・五感をフルに使い調理し、手をかけて工夫することから、他の命への感動、命をいただく感謝の心が生まれます。

・身土不二：その土地の食材を丸ごと生かし、美味しい時期に合った調理法で食す心を育めば、健康的な食生活となります。

・季節の恵みを生かし、季節を感じる盛付けをし、時々行事・伝統も踏まえ食卓を設え、囲むことで豊かな情操が育ちます。

・旬の味は五感を総動員した食べ方（味覚・嗅覚・視覚・触覚・聴覚、後味、歓談、よい雰囲気）から味わえます。そこに四季それぞれの恵みが到来してこそその感性の喜びを得られます。

・「いただきます」「ごちそうさま」「もったいない」という食事習慣の良き言葉を発する際は、地球環境に思いを馳せる瞬間です。



●旬と地球温暖化

・地球では微生物(10²⁴個)をバックに、動植物は太陽エネルギーを浴び生命を受け、自然な食物連鎖の環に組み込まれ、呼吸や同化をし、生命を営みます。人間は雑食性で食物連鎖の頂点に立っています。人類は生き物を増産し、さらに現代は超加工食品*注)を生産し、遺伝子を組換え、CO₂を排出し環境を崩しています。しかし人は地球の生物 3000 万種の 1 種に過ぎません。地球温暖化現象で動植物の様相の変化が顕著です。特にここ数百年の生物絶滅は以前の 1000 倍のスピードで進んでいるということです。生物は年に 4 万種が絶滅しているといわれています。(すなわち 15 分に 1 種が絶滅している！)

・人は生きとし生けるものを(犠牲に)毎日食べ、その命をもらい、自身の体を作り、命を保っています。身近な食材から旬を感じた際に、その命を感じ、季節の移り変わりを感じ、地球が巡り動いていることも実感できるでしょう。温帯域の日本

は、四季が巡りくる恵まれた環境にあります。そこで特に自然を大切に感じて喜ぶ感性を得ているのです。地球環境のことに思い巡らす気持ちが自然に起こってきます。しかし温暖化促進で気候の変化・移りは激しく、四季は二季になってしまうのではと懸念されています。

・人工栽培や加工度が上がり、工場生産され包装された食材からは季の感性は薄れていきます。食は工場生産物なのかとの錯覚に陥ってしまう現代なのです。

・個人の食行動は食環境すなわち地球環境問題に自ずと繋がっています。生態系、飢餓、水、燃料、農地、農業貿易・システム、フェアトレード、自給力、食消費・エネルギー消費、フードマイレージ、地産地消、食品ロス、フードバンク、有機農法、循環型社会、農業生物多様性、アグロエコロジー、食生態。超加工食品などの生産企業の経営ポリシーと表示・広告。自分自身の食知識・意識も含め、食情報、食育…等々と食関連の課題は山積しています。

・野山を巡り農耕を始め、自然と対峙した頃の人らしい感性は何処に。AI との共存の機会が増す今後、人は食へのよき感性と行動を持っていることを再意識して大切にしたいものです。

(次号へつづく)



*注) 超加工食品：米国糖尿病学会によれば、超加工食品の定義は「糖分、塩分、脂肪を多く含む加工済みの食品。硬化油、添加糖、香味料、乳化剤、保存料などの添加物を付与して、工業的過程によって作られる、常温でも保存することができ、日持ちする食品」のこと。また Wikipedia (英) によれば、「収益性が高く、便利で、非常においしいものになるように設計され」ているとのこと。食べ続けることでの健康への影響が懸念されている。食べ過ぎないように、小腹がすいた時の菓子パンやラーメンをおにぎりに、おやつのお菓子やクッキーを、ヨーグルトや果物に換えてみてはと提案しているサイトもあった。なるほど、これならできるかも！
(生活環境委員 喜田)

わたしたちの暮らしとエネルギーを考えるワークショップ

2023年11月26日「原発をとめた裁判長 そして原発をとめる農家たち」映画上映会+WS

2024年1月19日「原発災害から12年 福島のエネルギーと農業」オンラインイベント

見たこともない災害がテレビから流れてきた。3.11 発災当時、私は8か月のこどもとのんびりとすごしていた。それから数日の間に起こる緊張感、被爆国に住む日本人にとって、平和学習で学んだ放射能で苦しむ人々を連想させた。とても暗い春だったことを覚えている。

あれから10年以上が経ち関西に住む私たちは福島のことを考えなくなった。あるとき、福島の農業者さんの講演を聞き強い衝撃を覚えた。エネルギーのことを真剣に考えなくてはならないと。

◆映画上映会+ワークショップ 11/26

「我が国の原発の耐震性は極めて低い」…2014年、関西電力大飯原発の運転停止命令を下した樋口英明・福井地裁元裁判長の言葉。映画の中では様々な角度から原発の安全性の問題をとらえている。安全性については理系の切り口で科学的な根拠が一般的には語られるが、シンプルに地震に耐えられない構造であることを“樋口理論”は証明する。一方この映画では福島の農業者さんの新しいエネルギーの取組も紹介され、心動かされる。

映画上映後のワークショップでは参加者の皆さんとの対話の場を設け、想いを語りあった。秋に福島に実際に行った高校生も参加してくださり、若い人たちと対話の場を持てたことは喜びである。参加者70名。

映画について……………参加者の感想から

●再生エネルギーの可能性 農業や地域との共存の可能性に触れられていてとても興味深く、また進めていくエネルギーになりました。

●2回目の鑑賞でしたが深めることができました。基準地震動など無用な科学論争はやめるべきだと思います。

●耕作による作物の生産と、ソーラーパネルによる電気の生産の二つが同時にできるということを知りました。とても良い事業なのに、申請から実現に至るま

でに長い時間が必要ということに怒りを感じました。時間をかけなければいけないことに「わざと」時間をかけず、すぐにでもできることに「わざと」時間をかけているように感じました。若い方たちが農業に携わってられることに希望を感じます。「つま先立ちして」という言葉が印象に残りました。

●樋口さん「裁判所で科学技術論争をしてはいけない。」→理工系の私にはぐーさーっ。

ワークショップについて……………参加者の感想から

●自分はこれまで原発で起きた事実を知らずに生きてきたので原発の恐ろしさを改めて知ることができてたくさん意見を聞いてとても勉強になった。

●同じグループの方たちの多くはこれまでずっと運動に関わってこられた方でした。私は美浜原発を見学して以来「進歩の先に破滅がある」と思ってきましたが、何も発言せず、ましてや運動に参加しなかったことを反省しました。世の中には私のような人も多いと思います。この映画がたくさんの方に見てもらえたら、きっと意識が変わる人もあるのではと思います。短い時間でしたが、このような話し合いの機会に参加させていただいて、ありがとうございます。

●高校生と中学生の参加が一筋の光明。

◆オンラインイベント 1/19

福島の農業者佐々木健洋さんをお迎えして実施した。ZOOM越しだが、対話の場を作りたいと思い企画した。様々な地域から参加していただいた。元旦に起こった能登半島地震の現状から関西圏に住む私たちにじわじわと原発災害がリアルに感じられるような時期でもあった。佐々木さんからは震災当時に農業者が直面した様々なことを教えていただいた。そして震災から12年後、福島にひろがる再エネの実証を全国に広めていけるのではと感じた。参加者33名。

イベントについて……………参加者の感想から

●餓死した牛の写真に胸が痛みました。福島県民は年間積算線量20ミリシーベルトを許容しなさいとは酷なことです。フクシマは終わっていないと強く感じました。

●原発事故当時の現場の写真を見せていただき、あらためて農家の方々の悲憤を感じました。また、気がつかないうちに法律ができていることは、怖いことだと感じました。市民がつながってお互い支えあってやっていきたいと思います。

●報道などでは見えにくい事実を知ることができた。また、電力の選択や太陽光発電を屋根に乗せて自給自足するなど、原子力発電利用を少しでも減らすために各自で何ができるか、具体的に動き出すきっかけになった。



▲映画上映後のワークショップ

知床あれこれ

理事 小田信子

知床には今年も流氷の季節がやってきました。

3月上旬までオホーツク海沿岸が流氷に覆われます。

昨年の2月、私と夫は知床にいました。用事も済ませて1日フリーになり最近人気の「流氷ウォーク」に参加できました。

足から首までが一体になっている「ドライスーツ」を手伝ってもらいながら着て、地元のガイドさんが流氷に案内してくれます。ガイドさんの「私の足跡を歩いてください。危ないですからね」の言葉に恐る恐る歩きますが、緊張します。

流氷といってもゴツゴツしたものばかりではなく、海水面が凍ったような平らな部分もあります。

広く平らな部分で、ガイドさんがトントンと足踏みをしていきなり全体重をかけて氷を割り、体が水中に落ちていきました。しかし両腕が周りの氷をとらえて浮いています。「あまり遠くに行かずにこの近くで、自分で割って海に落ちてね」「絶対に沈まないで安心して♡」との言葉で同行の人々が氷を割って海に落ちては「キャーッ！」と叫んでは「ウワッハハハ〜」と大笑いをしています。私も体験！体が水の中に落ちていく感覚で思わずギャーッと叫ぶもののホントに海に沈まないのです。いきなり氷が割れて体が落ちていく感覚と沈まないという安心感でつい大笑い。なんとも不思議な感覚を体験しました。

このような体験ができる「流氷ウォークツアー」はお勧めです。



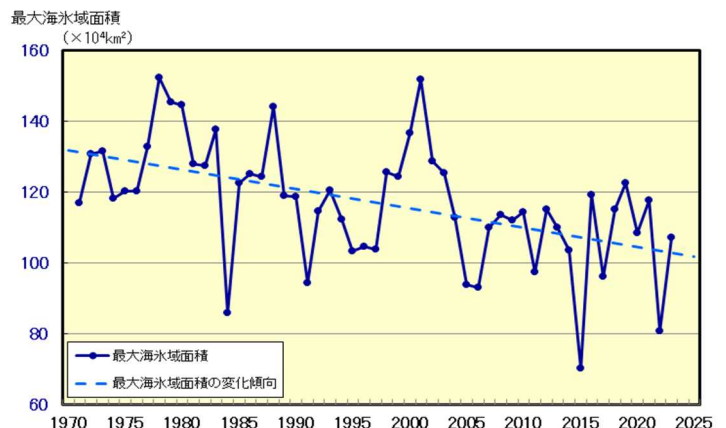
両手を広げいつ自分が落ちてても体が浮くように準備します

あくまで地元で詳しいガイドさんと一緒に行ってください。最近ガイドなしで流氷の上を歩く人がいるらしいです。流氷は流氷同士が付いたり離れたりするので、隙間だらけと思ひましょう。流氷の上を歩くのは危険そのものなのです。流氷の状況を毎日見て、歩いて確認しているガイドがいてこそできるのが「流氷ウォークツアー」です。

ところで流氷がなぜオホーツク海沿岸で見られるのかご存じですか？

オホーツク海はシベリアやカムチャツカ半島と千島列島、樺太と北海道に囲まれています。そこにアムール川から真水が流れ込むので太平洋よりは塩分濃度が薄く、凍りやすくなっています。そしてシベリア沖でできた海氷(流氷)が北風に乗って北海道のオホーツク海岸に流れ着きます。世界でも最南端で見られるのが北海道のオホーツク海沿岸であり、知床なのです。

その流氷も温暖化の影響を受けているようで、気象庁のデータではオホーツク海の流氷の面積が年によって差はあるものの確実に少なくなっています。



オホーツク海の最大海氷域面積の経年変化(1971~2023)

【事務局よりお知らせ】

●2024 年度「第 26 回通常総会」のご案内

日 時: 6月15日(土) 15 時～16 時

会 場: 千里山コミュニティーセンター

講 演: 16 時～17 時

吹田市立博物館 館長 高橋真希さん 「博物館がなぜここにある」

詳細については、5 月送付の議案書にてご確認ください。

<問い合わせ先> 事務局 中村小夜子 Tel: 090-8375-0647 E-mail: k-kaigi@hotmail.com.jp

すいた環境教育フェスタ 2024

松ぼっくりつり
難しいけど
コツをつかめば楽しいよ▶

2月3日(土)、今年はこちらのプラザで開催され、市民団体や大学、企業、行政など18団体が参加しました。環境会議は「レッドリスト2023+ブラックリスト」の展示に加え「松ぼっくりつり」を実施。ブースは子どもたちの歓声であふれ、100人を超える参加者で終日にぎわいました。



◀こんなにつれたよ

▲松ぼっくりつりのサポートやパネル説明にスタッフは大忙し

ラコルタ主催「みんなの SUITA DAY」に来てね!

3月20日(水・祝) 10時～16時 阪急南千里駅前(入場無料・雨天決行)
環境会議は千里ニュータウンプラザ2Fで「森のクラフト」を実施します。自然素材で楽しく作品を作りましょう!
参加費: 子ども 200円・おとな 500円



◀くわしくはこちら

出会う、つながる、ワクワクする!

みんなの SUITA DAY 2024

南千里駅前 まるたす広場 & 千里ニュータウンプラザにて

3月20日(水・祝)
10時～16時
(入場無料・雨天決行)

【まちなみ散策会のご案内】

●まちなみ散策④ ～桜見物と EXPO'70 パビリオン見学～

日時: 4月3日(水) 10:00～12:30 頃 雨天決行

集合 & 解散場所: 万博記念公園 自然文化園中央口前

申込先: 金指(かなさし)弘 (SMS: 090-6054-1767
メール: kanasashi@sutv.zaq.ne.jp)

締切日: 3月24日(日)

入園料: 自然文化園・日本庭園共通 大人: 260円 小中学生: 80円

入館料: EXPO'70 パビリオン(含、別館) 大人: 500円 ※中学生以下無料

